

# 地域資源・須恵器の歴史文化の伝承

## 公益財団法人 寒風陶芸の里

### 活動の目的

岡山県瀬戸内市・備前市一帯で焼かれた「須恵器」は後に「備前焼」へと発展する。その須恵器を焼いた窯跡が残る寒風古窯跡群（国指定史跡）で焼かれた須恵器は当時の都である平城宮などで出土しており、高い作陶技術が評価されている。寒風古窯跡群は平成17～19年に確認調査が行われ、平成28年度には寒風の地に須恵器の窯を作り、須恵器の焼成を行うとともに須恵器についての学習を行った。平成29年度も活動を通して作陶技術を検証し、現代の備前焼のルーツをたどるとともに、須恵器の歴史文化の伝承を行うことを目的とする。

### 活動の内容及び経過

<内容>

寒風陶芸会館にて寒風作家協議会・寒風ボランティア協議会の協力で、須恵器の円面硯作りワークショップ、須恵器窯公開焼成を行い、焼成した須恵器の作品発表会を行った。

<経過>

- (1) 須恵器の円面硯を作ろう！ 平成29年11月3日（金・祝）  
参加者：23名 会場：寒風陶芸会館陶芸教室
- (2) 須恵器窯公開焼成 平成30年1月16日（火）～20日（土）  
会場：寒風陶芸会館須恵器窯
- (3) 須恵器窯出し 平成30年1月28日（日）  
会場：寒風陶芸会館須恵器窯
- (4) 須恵器作品発表会 平成30年2月10日（土）～12日（月・祝）  
来館者：183名 会場：寒風陶芸会館会議室

### 活動の成果・効果

寒風古窯跡群の歴史、須恵器の作陶技術の伝承を行うことを目的に、寒風作家協議会・寒風ボランティア協議会の協力で円面硯作りのワークショップ、須恵器の焼成、作品展示発表会を行うことが出来ました。

ワークショップについては、瀬戸内市教育委員会の方から円面硯についての説明を受け制作を開始。参加者は「硯はいつ、なぜ四角い形状になったのかなどと、古代に思いをはせつつ作った」と話していました。円面硯という道具の制作を通して、それを必要とした歴史的背景を想像するきっかけになりました。

須恵器の焼成に関しては、作家の協力を得て取り組んだ結果、窯全体の作品に須恵器の発色を見ることが出来ました。この結果データを基に、次回の焼成課題も見え、須恵器焼成に関する意欲を共有する結果となりました。

寒風古窯跡群では、鷗尾や陶棺、円面硯など特殊な須恵器が作られており、高い技術を誇る陶工集団がいたと考え



られます。こうした歴史を伝えつつ、体験を通して作陶技術の伝承を行うことが出来ました。

### 今後の課題と問題点

作品制作体験を通し、寒風古窯跡群の歴史や須恵器の作陶技術の伝承を行うことは出来たが、作品の使用イメージまで提案する事が出来ればよかったです。発表会に伴い、作品使用の実演をすることで、実用品としての歴史的イメージを膨らまし、より身近なものとして感じていただくことが出来たかもしれません。

発表会場である寒風陶芸会館は、車でのご来館が前提にあるような立地にあるため、不特定多数の人に見ていただきにくい状況にありました。作品発表会場については、別施設での展示も計画できれば、より多くの方々にご覧いただくことが出来たのではないかと思います。

- 代表者：武久顕也 ●所在地：瀬戸内市牛窓町長浜
- TEL：0869-34-5680 ●E-MAIL：info@sabukaze.com
- URL：http://www.sabukaze.com/
- 設立年：1979年 ●メンバー数：5名